

◆◆「新しい川崎」メール版◆◆

---2023年12月12日・第102号---

<目次>

●自衛隊統合演習が川崎でも実施される

■新たな広がりを実感 ～第32回「子どもの未来をひらく川崎集会」～

▲お知らせコーナー

☆12/12 市民のためのまちづくり学習会

☆12/14「ウイシュマさん死亡事故から2年 入管法改定で何が変わりますか？」

☆12/16 大倉ミカ・大介バンド ウインターライブ

☆12/16 学校給食のあり方を考える官前市民のつどい

☆12/16 川崎区革新懇講演会「気候危機を打開する日本共産党の2030戦略」

☆12/19 情報公開制度を活かす川崎市民の会 23年度活動報告・学習会

☆12/20 川崎市社保協第30回定期総会記念講演「社会保障と私たちの生活サイクル」曾根貴子

☆☆第5回川崎市議会定例会会期日程

★編集後記

●自衛隊統合演習が川崎でも実施される

防衛省統合幕僚監部は、11月10日から20日まで、国民には、ほとんど知らせず、「自衛隊統合演習」を行いました。

これは、全国の自衛隊基地以外にも、民間の空港や港湾、その他の民間施設を動員し、米軍も1万人参加した大規模な実働演習でした。

民間空港では、自衛隊機による戦闘機や輸送機の離着陸訓練が計72回に上るとの報道がありました。

「対中国」を念頭に、敵基地攻撃能力の行使への反撃を受けて自衛隊基地が使えなくなり、戦闘機を空港に退避させる有事の事態を想定したものでした。

使用されたのは岡山空港、大分空港、徳之島空港、奄美空港の4カ所です。

そして、川崎でも、実は「自衛隊統合演習」が実施されていたことが、7日の川崎市議会での井口真美議員（日本共産党川崎市議団）の代表質問で明らかになりました。

(以下、井口議員質問を中心に紹介します。)

川崎市には、事前に、自衛隊東部方面総監部から「11月6日と11月13日に麻生区の民間病院

の屋上ヘリポートに自衛隊のヘリコプターが離着陸する」という連絡がありました。

しかし、いったい何が行われるのかは、まったく明らかではありませんでした。

その後の調べで、このヘリの離発着は、傷病者の「後送」訓練であることがわかりました。

「後送」とは、軍事用語で負傷兵や捕虜を戦地の後方に移送することです。

実際、この訓練では、横須賀基地に運ばれたが、横須賀の自衛隊病院では治療できない傷病者を民間病院に移送するという想定でした。

民間病院で訓練を行ったことについて、防衛省は「当該病院を特に指定して行ったものではないが一度でも訓練をしておけば、今後何かの時に慌てずに使わせてもらえる」と発言しています。

同時に、自衛隊は、この訓練の事前周知は病院任せにしており、周辺住民への周知もありませんでした。

いま、岸田内閣の下で、日本が海外の戦争に参加する危険が高まっています。

海外にせよ国内にせよ、いざ有事となり、自衛隊などの傷病者を民間病院まで動員して収容すれば、民間病院は後方施設として戦争に加担することになり、今いる患者さんも追い出される懸念があります。

ジュネーブ条約では、どんな戦争、軍事行動でも軍事施設のみを攻撃の対象とすると厳格に定められています。

しかし、民間施設も軍事利用されていればそれは除外されます。

病院は国際人道法で、どんな場合でも攻撃してはならないとされていますが、ガザを見れば、戦争が始まればお構いなしになるという恐怖も私たちは毎日感じています。

そういう新たな危険を全土に広げる訓練が川崎市も巻き込んで行われたのです。

川崎市は、防衛省、統合幕僚監部に対して、詳細な説明を求めるべきです。

今後、同様の訓練がある際には直ちに説明を求めるとともに、市民の安全を守るという観点から、市内での訓練は拒否すべきです。

■新たな広がりを実感 ～第32回「子どもの未来をひらく川崎集会」～

12月3日に開催した32回目の「子どもの未来をひらく川崎集会」(略称:未来集会)は300人を超える参加がありました。

子どもたちが36人も参加し、新たな広がりを実感する集会になりました。

コロナ禍で2年間は休止せざるをえませんでした。毎年1回、教職員、川崎市民、保護者の共同で30年以上続けてきた「市民教育集会」は全国でも数少なくなっています。

つい、最近亡くなられた劇作家の山田太一さんにも、この集会で講演してもらいました。

2月3日(日)のお昼、法政二中高の2階受付玄関より下を眺めていると、2組のバギーで来た小さい子連れの家族を見かけました。

二人の子ども連れの母親には「エレベーターがこちらにあります」と紹介し、もう一組の男女は男の人がバギーを抱え階段を上がって来ました。

私は、この風景に胸が熱くなるのを覚えました。「明らかに新しい人たちがこの集会に来ている」ことを実感しました。

午前の部は、品川区で子ども若者応援フリースペースの代表をしている中塚史行さんの講演です。中塚さんは、開催校の法政二高の卒業生です。

高校生時代に平和研究会というサークルで陸軍登戸研究所に取材に行き、「君たち高校生には話そう」ということで風船爆弾などを作っていた事実を聞き出しました。

次に、今全国で約29万人の小中学生の不登校の実態の報告とその理由について話されました。

印象的だったのは、社会人になってもフリースペースに通う青年の理由が「ここには何もない。」何かをする必要がなくホットできる場所であるという話と、小学校4年生に「学校にあると良いものは何ですか？」と質問したら、<休憩するところ>が一番多かった。」という話でした。

絶えず、何かをしなければならぬ生活を送っているのは子ども達だけではなく、大人も同じでゆっくりと話せる場が求められていると強調されました。

不登校の理由として、いじめが原因とした教職員は0.3%だったのに対し、不登校の子どもからはいじめが原因は、30%！

このギャップについても考えさせられました。

午後からは11の分科会が開かれました。

親子でのクッキング(おはぎづくり)、こどもの遊び広場、よみ聞かせ絵本、乳幼児などの子どもが体験できる分科会や、若者青年の語り場、さらに「武蔵小杉駅周辺のフィールドワーク」など多彩な分科会が開かれました。

午前中は大人が講演を聞いている間に同時に開かれる「子ども広場」や、一日を通しての保育、昼食休憩中は、地元野菜、障がい者施設によるお菓子、藍染などの出店も開かれ、にぎわいました。

来年の2月4日(日)10時より中原市民館会議室で第33回集会に向けての第1回実行委員会を開くことにしております。ぜひ、参加してご一緒に未来集会をつくりあげていただければと思います。

事務局長 船津 了

▲ お知らせコーナー

☆市民のためのまちづくり学習会

テーマ「武蔵小杉再開発」と「等々力公園再整備計画」を考える

12/12日(火)18時半

かわさきゆめホール

主催 川崎民主市政をつくる中原区の会

※ 都市再開発や緑保全に関心のある方は、中原区以外からも歓迎です！

連絡先 田鎖英男 090-3514-8397

市古博一 090-7830-8030

[詳細はこちらから](#)

☆「ウイシュマさん死亡事故から2年 入管法改定で何が変わりますか？」

12/14(木)18時半

てくのかわさきホール

資料代 1000円 学生以下は無料

連絡先 柴田 090-1458-3102

[詳細はこちらから](#)

☆ゆめごこちライブ Vol.6 大倉ミカライブ

12/16(土)

かわさきゆめホール

第1部 15時より

ミカ trio ウィンターライブ

第2部 18時より

大介バンドCD発売記念スペシャル

各 2500 円/通し券 4500 円

お申し込み 044-433-3003 ゆめホール

hall@kawasakiyume.com

[詳細はこちらから](#)

☆学校給食のあり方を考える宮前市民のつどい

第1部 映画「希望の給食」上映会

第2部 学校給食無料化の実現を

12/16(土)10時～12時

宮前市民館台4会議室

お話 市古博一

連絡先 藤田 090-6034-7686

[詳細はこちらから](#)

☆川崎区革新懇講演会「気候危機を打開する日本共産党の2030戦略」

12/16(土)14時～16時

講師 佐藤洋さん(日本共産党政策委員)

特別報告 片柳すすむさん(日本共産党前市議会議員)

資料代 300 円 連絡先 阿久津 090-7138-6685

[詳細はこちらから](#)

☆情報公開制度を活かす川崎市民の会 23 年度活動報告・学習会

12/19 日(火)18時～20時

高津市民館 第6会議室(12階)

問い合わせ先:070-5574-8006

(畑山)

[詳細はこちらから](#)

☆川崎市社会保障推進協議会第30回定期総会

記念講演「社会保障と私たちの生活サイクル」

講師 曾根貴子(保団連・中央社保協運営委員)

12/20(水)午前9時半～

かわさき総合自治会館 第1・第2会議室

☆☆第5回川崎市議会定例会会期日程

12/6(水) 代表質問(自民党、みらい)

12/7(木) 代表質問(公明党、共産党、維新の会)

12/8(金)、11(月) 委員会で議案の審議

12/14(木) 議案の討論と採決

12/15(金)～20(水) 一般質問

※ 18日までで請願・陳情の受け付け締め切りになります。

※代表質問を傍聴しましょう。

★編集後記

この週末、妻の実家の墓じまいで鹿児島に行ってきました。

念願の知覧特攻隊平和会館を訪問。

「お国のためと、かけがえのない命を散らした若者たちを「英霊」として崇めるようなところだったらイヤだな」と思って居ましたが。

そんな不安は見事に裏切られました。

「戦争の悲惨さや命の尊さ、平和の大切さを次の世代に伝える」ことをコンセプトにし、「残されたものをありのままに展示する」という方針に好感。

特攻隊員の遺書や、家族、恋人に宛てた手紙など膨大な資料をを中心に、零戦、疾風の実物と、隼の複製や海軍水上特攻艇「震洋」の複製も展示されています。

海軍の特攻隊が初めて作戦を実行したのが1977年10月21日、陸軍は1945年の4月1日、「特攻隊戦没者慰霊顕彰会」によると、海軍2531名、陸軍1417名、計3948名が作戦によって命を落としたと言います。

2度とこのような悲惨な戦争はごめん(Y)

☆☆チェンジかわさき！☆☆

川崎民主市政をつくる会

〒211-0011 中原区下沼部 1880

お問い合わせ

mailmag@newkawasaki.jp

公式ホームページ

<https://newkawasaki.jp>

☆☆**チェンジかわさき!**☆☆

配信を希望されない方は以下をクリックしてください。

自動的に登録を解除します。

https://my922p.com/User/cancel_mail/fMwwpqj4/rnaaDiFyaAjh?mail=talosxxx%40gmail.com

誤って登録解除した場合、以下までご連絡ください。

mailmag@newkawasaki.jp